AMDA インド連邦・ビハール州ブッダガヤにおける井戸建設事業
最終報告

1. はじめに

インド連邦北東部に位置するビハール州は、インド国内の中でも貧困率の高い地域として知られています。インド全土の平均が 21.9%であるのに対して、ビハール州では、33.7%。ビハール州における貧困とは、1 人当たりの消費額が農村部の場合、ひと月 778 ルピー（約 470 円）または都市部の場合、ひと月 923 ルピー（580 円）で暮らすことです。すなわちビハール州に住む 3 分の 1 の人々は、このような経済状況の中暮らしています。（Government of Bihar, Finance Department, Economic Survey 2016-2017）

この度、井戸を設置したビハール州ブッダガヤ地区マティヤニ（Mathiyani）村ダンプール(Dapur)に住む人々も、周辺の村同様に農業や日雇い労働で生計を立てています。老若男女問わず、色あせた服や穴が開いている服を着ている人をよく見かけます。また、子どもたちは裸足で駆け回って遊んでいます。

2. 井戸建設の必要性

以前、一緒に活動したことのある、ブッダガヤ地区で学校運営をする団体「エコレス・デ・ラ・テレ」の事務局長であるラジェッシュ氏からマティヤニ村ダンプールに新しい井戸を建設する必要性が高いことを伺いました。

新たに建設した井戸が完成する前にも、公共の井戸が 1 つありました。しかし、古い井戸は水深が浅く、乾季になると水が枯れてしまうため、暑い日には 50 度近くなる炎天下の中、村の人たちは近隣の井戸に水を汲みに行く必要がありました。この地域では、飲料水を含む生活用水全般を井戸水に頼っているため、自分の村に井戸がないこと自体が大きな問題でした。かといって、経済的に自分たちでお金を出し合って、新たな井戸を建設することが難しい状況でした。

3. 井戸建設に向けた村での聞き取り

2018 年 11 月、ラジェッシュ氏とアムダピースクリニック元職員のヴェーダ氏と一緒に AMDA 菅波代表が現地を訪問した際、ダンプールに住む村の人たちと話し合いの場を持ちました。乾季に生活用水が必要なことに加えて、農業用水の必要性についても語りました。農業用に使用できるほどの水量が出る井戸が村にないので、農業用水を他の村から購入して、米や小麦を栽培していました。直接、村の人たちから村の現状と井戸の必要性に関する説明を聴き、検討した結果、井戸建設計画を 25 世帯 135 人が暮らす、マティヤニ村ダンプールで進めることになりました。

4. 井戸建設場所

村からの提案で、井戸の建設場所は、家が密集する場所ではなく、村の入り口にある川沿いに決まりました。通常、井戸の周りは水浴び（シャワー)、洗濯や食器洗いの場にもなるため、使用した生活用水で水溜りになりやすく、そこがマラリアやデング熱など蚊媒介感染症の発生源ともなりかねません。また、特に不潔にしている場所にはごみのポイ捨てが絶えません。そこで、川に排水できる村の入り口に井戸を建設することになりました。

5. 井戸建設

12 月 22 日に、地元のしきたりに沿う形で地鎮祭を執り行いました。

1 月 15 日から井戸の掘削を開始しました。しかし、60 から 70 フィート（18 から 21 メートル）のところで、石の層にぶつかったため、石の層を突破できる掘削機を持つ業者に依頼し掘削を継続しました。

3 日後の 1 月１８日には、150 フィート（45 メートル）の地点で井戸水が出て、村の人たちはお互い喜びを分かち合いました。翌日より、井戸小屋の建設に移ったところ、使用済の井戸水を川に流すと、川縁の土が削れて、井戸小屋が崩れる可能性があることを聞いて、急遽、川縁の補強に着手しました。

建設開始から 2 週間経った 1 月 29 日にダンプールを訪れると、井戸小屋の土台建設は完了し、壁建設が始まっていました。ブッダガヤでは一年で一番寒い時期で、朝晩は 0 度近くになることもあります。この時期に小麦を栽培するダンプールでは、早速、建設間もない井戸から水を引いている水田もありました。水田に引いている水で、食器洗いを手伝う子どもの姿もあり、農業用水、生活用水の両方で井戸水が活用されていました。

2 月 11 日、現地から報告があり、井戸小屋の完成が近いという知らせが届きました。井戸水は電気モーターで汲み上げているため、停電の際には水を汲み上げることができません。そのため、貯水タンクを井戸小屋の上に設置してありました。壁建設も最終段階に入っていました。この日も、村のお母さんたちは井戸小屋の周りに集まり、洗濯をしていました。

2 月中旬から下旬にかけて、井戸小屋の周りの整備が始まりました。井戸小屋の周りに 4 つ蛇口を設置しています。水を汲む際、地面が水浸しにならないように、蛇口の下に煉瓦を敷き詰め、セメントで固めました。

3 月 13 日、現地から井戸建設が完成し、ダンプールの人と一緒に、完成を祝ったという知らせが、現地から届きました。

6. 村のリーダーから挨拶

村の人たちに選ばれたリーダーであるイスワル・マンジ氏から挨拶が届きました。

「村の人たちは、新たに建設した井戸を日常的に使っています。今の時期は井戸にプラスチックホースを繋げて、小麦畑に水を引いています。小麦栽培の後は、稲作が始まります。村の両側に広がる田畑の農業用水として使用するだけでなく、もし依頼があれば、周辺の村の人たちにも水を提供する予定です。

今までは水使用料として、1 カッタ（インドにおける面積の単位）30 ルピーを井戸の所有者に支払っていましたが、これからは井戸修繕費用の積立金として 1 カッタ 20 ルピーを農業用水使用者から徴収する予定です。ご支援いただいた井戸を皆で大切に使って行くと同時に、修繕が必要になった時の備えもしています。生活用水としては、飲料水をはじめ、洗濯、水浴び（シャワー）、皿洗い、家畜の飲み水などに使用しています。

井戸建設中は、建設資材が盗まれないように、資材の横に青のビニールシートで作った簡易テントで寝泊まりすることもありました。村全体で、井戸建設に取り組みました。

井戸建設をご支援くださり、ありがとうございました。」